

Alert 46号

反天皇制運動

[通巻 428号]
2020年
4月7日発行

第2期・反天皇制運動連絡会

- 野次馬日誌 * 9 集会の真相 * 10 学習会報告 * 11 反天日誌 * 12 集会情報 * 12
- マスクミジカケの天皇制 * 45 (壊憲天皇制・象徴天皇教国家) 批判 その10 ○
- 「昭和代替わり」の一億総自粛と「令和総自粛」——天野恵 * 8
- 太田昌国のみたび夢は夜ひらく * 118
- 感染症の世界的な流行を捉える視点——太田昌国 * 7

- 今月の Alert ○ さあ、「不安」と「恐れ」と「怒り」の行動だ！ * 2
- 反天ジャーナル ○ — 蝙蝠、アキラ、いわゆるひとつの非国民 * 3
- 状況批評 ○ 天皇代替わりを振りかえる — 千本秀樹 * 4



連日の新型コロナの報道、首相や知事の空疎な言葉にはあたまにくるが、ほとんど家を出ずに過ごしている。たしかに世界中が鎖国しているって、異常な事態ではある。今日の時点では「緊急事態宣言」はまだ出されていないが、連日の報道ではどうもいすれやりたいと思っている人たちがいるようだ。

厚生労働省は通信アプリ大手のLINEと協定を結び、国内8300万人の利用者に健康状態調査として数回にわたってアンケート調査を行う(初回は終了)。年齢、性別、住んでいる地域の郵便番号などを答え、個人が特定されない形で統計処理をして厚労省に提供するというのだ。初回調査でされた質問はたいした内容ではない。でも、これって個人を特定する形もありうるのだ。今回はコロナ対策ではあっても、今後こういう形態を通して人びとの情報を堂々とあっさり集めることができるのだ。

人の接触禁止、外出禁止になっているベルリンでは、スマートフォンのGPS機能を利用して外出していないか、密集しているかの調査をしているという。これも個人は特定しないということだが、かなりえぐい話だ。

日本の法律では「外出自粛要請」しかできない。それでも集会やデモを中止させられることはありうる。外出を自粛することによって雇い止めや休業を強いられている人たちへの生活補償や損失補償は決まっている。感染の終息が見えないなかで、経済の落ち込みがどんなことになっていくかまだわからない。中止にならずに延期になったオリンピック開催までにかかるお金で、役に立たない武器など買うお金で、神がかった儀式をするお金で、一刻も早く今の事態に対処してお金を使ってほしい。オリンピックなどやってる場合ではないのだ。みなさんもご自愛を！

(中村ななこ)

- 定期購読をお願いします(送料共年間4000円)
- 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス
東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所窓口 落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail:hanten@ten-no.net>
- 以前の情報はこちら▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

250円

今月の Alert

さあ、「不安」と「恐れ」と「怒り」の行動だ!



三月一日、政府は「立皇嗣の礼」として「立皇嗣宣明の儀」と「朝見の儀」の二つの儀式を四月一九日に国事行為として行うことを閣議決定した。「新型コロナ感染拡大」がすでに大きな問題となりつつあったときだ。この「立皇嗣宣明の儀」で、秋篠宮は次なる天皇といつ身分の「皇嗣」となったことを国内外に宣言する。政府の見解では、この二つの儀式を迎えて天皇「代替わり」一連の儀式すべてが終了となる。ちなみに一つ合わせて四五分足らずの儀式にかかる費用は約四〇〇〇万円。今年度（今年四月以降）の「皇位継承関連」予算はこの「立皇嗣の礼」を含め、上皇夫婦と秋篠宮一家の住居改修費用で二三八億円だ。この時世になんたる無駄遣い。言葉を失つてしまふ。

報道によれば、新型コロナ騒ぎで「祝宴」にあたる「宮中饗宴の儀」を取りやめ、「立皇嗣宣明の儀」の招待者を当初のおよそ三五〇人から五〇人程度に絞り込んだ」という。招待者五〇人とはいえ、関係者を含めれば相当の人数になるに違いない。この儀式がクラスターになるといった懸念は考えないことにしているのか。東京都下ではほとんどの公的会場は閉鎖に追い込まれ、人が集まる」ことを自粛させるための同調圧力が重たくのしかかっている。そのようななかで、おそらく感染回避のためにもさりに金を使い、儀式は予定通り遂行されるのだ。政府や都の「外出自粛」要請によって生活困難や死と直面させられる

人々が続出している状況にあって、「慈愛」を売り物とする皇室は「やつやつて無駄遣いをつづける。「儀式」へりて自粛しろ。中止だ議を出す」として一致。

今年も例年どおり、反天連も呼びかけ団体となつて4・28～29連続行動の実行委を立ち上げ、「立皇嗣の礼」への抗議行動も含め連続の行動を準備してきたが、ここにきて会場閉鎖の憂き目にあつてはいる。それだけではない。どの運動現場もそうだが、新型コロナ感染拡大問題は、同調圧力とは別次元のところで私たちにさまざまな判断や決断を迫つてしまつ。行動を呼びかける」と自体の是非についても議論しなくてはならない状況が続いているのだ。そこには感染拡大に寄与するかもしれない、あるいは自身も感染する可能性があるという不安と恐れが横たわつてはいる。実行委は議論を重ねた結果、やや異例の形となるが、以下のよくな結論に達した。

先月すでにチラシ等で伝えていた4・19の「天皇も跡継ぎもいらない、アキシノノミヤ立皇嗣を認めない」討論集会は会場閉鎖で中止。代わりの行動として東京駅前にて情宣行動を実行委有志で呼びかけることとなつた。討論集会では、「秋篠宮論」と「皇位継承問題」について討論することとなつてはいたが、この街頭行動でも参加者とともに少しでも意見を交えていければと思う。また、「今こそ問う『安保・沖縄・天皇』4・28～29連続行動」も、

●二九日は千駄ヶ谷区民会館に一四時。居から伸びてはいる「行幸通り」（丸ビル前）広場）へ！
●二九日は東京駅前（丸の内側）一五時、皇

●マスク必須 少しでも体調が悪い場合の無理は禁物、としましよう。「細く長く」でも声を上げたい人は、

（桜井大介）

集会は中止（あるいは延期）。二九日の反「昭和の日」デモは実行委有志の主催で呼びかけているのか心許ない。はつきりしていいのは、そのための判断材料が不十分すぎるとこだけだ。政府や都、公的機関が送りつけた情報は正しいのか、足りているのか、まったく信頼などできないなかで、ただ不安感だけが増幅させられるような状況に人々は置かれている。異常事態である。新型コロナは怖い。しかし情報隠蔽と「ひきこもり」作戦だけを押しつけ、その徹底のための強硬な措置を考えるだけで、疲弊する社会を救う手立てを真剣に考へない今の政治への怒りの方が大きい。一方で多額の税金を「こんなときに？」と呟れるようなタイミングで行う儀式に費やす。怒りは増すばかりだ。

恩賜のマスクで蔽うもの

映画にみる米国機関の拷問

天皇とアベノマスク

学齢期から老いを意識するまで長きにわたってたびたび芋の子として難に扱わされてきたので、近代人としての主体がいびつになつてゐるのは致しない。他者との距離感を苦にしてきたから個としてはありがたいようだが、しかし1ミリたりとも社会性を認識できていないクソな権力者から、形ばかり1～2メートル以上の「社会的距離」を強要され、集まりのいちいちに干渉されるのはどうにも困る。

秋篠の「立皇嗣の礼」は、イベントとしての饗宴や記帳やパレードは中止のようだが、立皇嗣宣明、朝見の儀については国事行為の大礼として実施するという。「主体」が危うくなると、国家や民族、集団的な儀礼への逃避の趨勢が広がるわけで、「呪われた東京五輪」は当面のところ延期になつたものの、じつは内部から新たな汚染が露呈されても「緊急事態」に紛れさせ、復活を虎視眈々とする。

とはじえ、政治や経済、株価や支持率、国策や「オトモダチ」優遇、大小取り混ぜあれやこれやの粉飾虚飾の数々が取つ扱われることにより、実はズタボロでしかない「ワーケニ」の実態はかなり見通しがよくなっている。これは、恩賜のマスクでは隠せまい。

反天シャーナル

(いわゆるひとつの非国民)

東京会場を終了し、（予定通りなら）四月～五月に名古屋と神戸を巡回するイスラーム映画祭で「神に誓ひて」（原題 *Khuda Kay Liye*、英題 *the Name of God*、1100七、パキスタン）が上映された。封切の翌年、五〇年ぶりにインペで公開されたパキスタン映画となり大ヒットした歴史的作品だ。この映画祭での上映も二〇一七年に続き一度目だが、新型コロナの影響で座席を一つ置きにしたためかチケットは完売。しかたなくYouTube で見る窓田に（チラシに）「アーティスト・カーネの映画レビュー作だと書いてほしかった…やしたりすぐ席とったの」という。

九・一 前後の社会に翻弄される若者三人を描く秀逸な劇映画なのだが、これに書きたいのは米国の拷問の酷さ。シカゴに留学していた主人公はアービア語のお守りを持っていたの（パキスタン人々に）車を所持していたせいでつかまり拷問にかけられる。そこで思い出すのがイング映画 *New York (1100九)*。これではイング系米国人の主人公が駅でじきなり大きな袋を頭からかぶせられてつかまる。しかもひも同じような拷問シーンが出てくるので証言に基づいているのだろう。何れの主人公も解放後に精神を病む。大スター主演の娯楽映画で米国行為を弾劾する南アジアの映画に注目。（アキラ）

安倍首相の一連の「一枚の布マスク配布政策」の評判がする「うるわるい」。ネット上でもぼろぼろだが、ワيدショウの中でも、「この政策の提案をした経済官庁出身の官邸官僚」、あの長嶋一茂が「私はバカですけど、」といつはもつとバカなんだなと思う」とコメントしたところ。当然と言えば当然で、この問題に限らず安倍政権に対する、まつとうな批判は枚挙にいとまがない。

このコロナ騒ぎが収束した後、天皇は医療現場の最前線で「コロナと闘った看護師や医師に」、「どう苦労さまでした」と労いと感謝の「お言葉」を発するであろう。それは、ネットを含めほとんどどの「国民」には好感を持って受け取められ、医療現場はこの課程で溜まったさらなる不満のガス抜きがされるだろう。そして、長らく指摘されながら一向に改善されない、医療現場の看護師等に課せられている過重な労働と薄給等の待遇の具体的な問題の解決がまたも煙に巻かれることになるのをせられてはいるだけなのだ。

状況批判

想・状況・批判

天皇代替わりを振りかえる

千本秀樹（現代史学）

新型コロナ流行と天皇代替わり

この原稿を書くついで、頭を整理しようと思つて、昨年五月一日、徳仁天皇即位の日の、NHKニュース数時間分を見た。録画だけはしておいたが、見たくなくて放置していたものである。

現在のテレビ放送が、新型コロナウイルスについて、危機感をあおる番組一色であるのに対し、ノーナタク（祝賀）色で、一年もたたないのにここまで変わるのかと考えこんでしまった。テレビ局が祝賀一本、危機あり一本で放送するのは共通している。今の放送では、安倍内閣の政策を批判する番組と支持する番組、批判する医師と支持する医師が混在してはいるのだが。

違つたなと思ったのは、昨年インタビューや受けた人が祝賀一本だったのに対して、今日は感染症を他人事と感じている人々が、一定の割合で存在することである。それが報道されるのも、危機アジリの一環かもしれないが、ただ、四月に入つて、都内の感染者数が一日百名に迫ると、都内繁華街から人が消えた。やはり日本国民は圧倒的に従順なのだと納得してしまつた。

大事なことは、うつさない、うつされないといつ自己防衛はむとより、何が不要不急かということを、自分で判断することである。批判されるべきは、公表する感染者数を減らすために、検査を妨害していふ行政である。笑つてしまふのは、天皇制とコロナウイルス問題で共通するのが、重要でむづかしいことは先送りしようとする、官僚と政治家の本質である。

さて、秋篠宮の立皇嗣礼を残して、天皇代替わり儀式がおおむね終了した。新天皇は即位後朝見の儀で、「国民の幸せと國の一層の發展、そして世界の平和を切に希望します」と述べた。それが一年たたないうちに、このありさまである。新型コロナウイルスの流行と新天皇個人とは何の関係もないが、古代天皇制であれば、改元や天皇の交替は必至である。言いたいのは、天皇の終身在位制、一世一元制が、天皇制にとって、強力な武器であることが浮き彫りになつたということである。

女系天皇への右派の抵抗

女性天皇を容認することについて、いまだに議論がある。これは、男女平等か、女性解放・人間解放かといふ問題である。男女平等は人間解放に至るプロセスの一部であつて、究極の目標ではない。一九八〇年代、男女雇用機会均等法をめぐつ

明治憲法で、天皇は無答責とされた。官僚、それ以上に軍人の世界では、「上官の命令は朕の命令」とされ、「朕」は責任をとらないから、大日本帝国は壮大な無責任国家となつた。それでも裕仁天皇は、「大東亜戦争」の責任をとつて、あるいは戦争犯罪人としての責から逃れるために、何度も退位を考えた。それで裕仁天皇が在位を継続できたのは、終身在位制があつたからである。

その意味では、象徴天皇制を強化する目的を持つて、明仁天皇が終身在位制を崩したこととは、天皇制にとって諸刃の剣であつた。徳仁天皇が即位後朝見の儀で語つたことばのなかで、わたしが注目するのは、「日本国憲法及び皇室典範特例法の定めるところにより、このに皇位を継承しました。この身に負つた重責を思うと、肅然たる思いがします」の「重責」という単語である。

これはたんに、皇位を継承しただけではなく、終身在位制を崩して即位したという責任が含まれているのは確実であろう。明仁天皇が、天皇史上、最強の統合力をを持った天皇であると以前書いたことがあるが、徳仁天皇は、先のことはの後に、「上皇陛下がお示しになつた象徴としてのお姿に心からの敬意と感謝を申し上げます。このに皇位を継承するに当たり、上皇陛下のこれまでの歩みに深く思いを致し……」と語つた。もうひとつ、時間は大きくさかのぼるが、イギリス留学のあと、「自分でものを考え自分で決定をし、そして自分でそれを行動に移す」という、やつぱつたことができるようになったのではないかなと思います」と述べたことがある。後者は文字面だけでは好感が持てるのだが、ふたつの発言をあわせて考えると、小泉信三のあと、天皇制設計者が不在のなかで、今後の天皇制の展開については、徳仁天皇の意向に強く左右されるといつてよいだろう。

て、運動が賛成と反対に分裂したことがある。反対派は、この法律の目的は労働基準法の改悪であると指摘した。案の定、女性のなかだけに、一般職と総合職という分断が持ち込まれ、「女でもあれほど働いているんだから、男はもっと働け

と女性差別と労働強化がもたらされた。

戦後、世界中で、女性兵士が登場した。日本でも女性自衛官が誕生した。これは男女平等の前進である。しかし、女性が国家のために、殺人を義務づけられたのである。女性天皇の実現も同じ意味を持つ。皇族は様々な面で、天皇制の被害者でもあるが、天皇は最大の被害者である。

小泉内閣で、女性天皇実現への道が開かれたが、秋篠宮悠仁親王の誕生によつて、議論は封印された。面倒なことは先送りに、という官僚と政治家の体質が如実にあらわれている。しかし皇位継承者がいすれ悠仁親王一人になつてしまふやうに、天皇家にとつての危機は去つていない。にもかかわらず、右派はなぜ女性天皇、特に女系天皇に反対するのか。

それは 天皇制が男系の万世一系で「なかよしきだ」といふことはなまけていいことだが、天皇制と天皇家が、外国の王制、王室に対し優位を保つ根拠になつてゐるからである。女性差別を抜きにして、天皇制が世界で最高の制度ではありえない。女系天皇を認めると、天皇制は英國王制のレベルにまで「下がって」しまつう」となる。

歴代天皇のうち、半数近くは側室の子である。特に江戸時代初期の明正天皇（徳川秀忠の孫娘、一六一九～一六四三）からは側室の子が続き、裕仁天皇が久しいぶりの皇后の子どもであった。万世一系は、側室制度によつて支えられてきたのである。そのため、故三笠宮寛仁親王をはじめとして、側室制度復活の声は根強い。しかしさすがに政府としては、それは受け入れられない。

にもかかわらず右派が焦りを見せないのは、奥の手があるからではないか。旧世家の復活という選択肢はすでに公表されている。竹田家のように、明治天皇の遺伝子を継ぎ、結婚して子どもをつくる可能性がある男子は六名ほどいる。テレビ朝日の「朝まで生テレビ」で言及された。長く国民生活を送ってきた旧世家が皇族に復帰するのは、一般国民に抵抗があるだろうとの指摘もあるが、該当者の誰かが現皇族女性の誰かと結婚すれば、抵抗も少ないだろう。人権蹂躪も甚しいが、可能性があるとテレビで発言するところとは、そのような選択肢を考えて調査しているということだ。天皇家が自然消滅することを待つてはならない。君主制を人民の力で廃止する

なぜ『万葉集』にこだわるのか

「令和」と「元号」が「文選」に源をもつにもかかわらず、安倍首相はなぜ「万葉集」だと云ふのか。ここにも女性差別があるよう思う。『万葉集』を高く評価したのは、賀茂真淵であった。かつてわたしは次のようにな書いた。「『万葉集』に「ますらおぶり」を見出して評価したのは、すこしだからぼつて江戸時代中期の賀茂真淵でした。良いものは男性風、悪いものは女性風という価値観に立つて、『古今集』よりも『万葉集』を高く評価したのです。真淵は『万葉集』に「直き心」、「まこと」を見出し、それは弟子の本居宣長をへて明治国家に受けつがれます。」（アドバンステージサーバー、一〇〇八）

文学史的には、『万葉集』を再評価したのは正岡子規の「歌よみに与ふる書」（一八九八）だとされているが、それより早く、大臣を歴任した官僚政治家の末松謙澄が一八八四年に『歌樂譜』で『万葉集』の音樂性を評価したことを、子規が参考にしたようである。さらに、帝国大学文科大学長で貴族院議員の外山正一が一八九六年に『帝國文學』に賀茂真淵と同様な意見を書いている。『万葉集』を再評価したのは、まず政治家であった。正岡子規も政治家になりたかったのだが、出身が朝敵藩であったため、おきりめて文学に進んだ。「直き心」や「まこと」は天皇に対するものに直結していく。

『万葉集』をおとしめるつもりはないが、明治における再評価は、政治的なものであり、また女性差別的なものであったのである。安倍首相が「令和」は『万葉集』だと言う張るのは、たんに国粹主義、中国嫌いからではないように思える。

天皇制宗教国家の強化

大嘗祭で、徳仁天皇は神となった。あまり注目されていないが、即位当日、閣議は「剣璽等承継の儀」を国事行為と決定した。三種の神器の継承も宗教儀式である。NHK放送文化研究所の「日本人の意識調査」によれば「天皇に対して「好感をもっている」人は三〇%台で高止まりしているが、「尊敬の念をもっている」人は、一九九八年の一九%から二〇一八年には四一%へと急増している。戦前のようないくつかの物理的強制力を持たないにもかかわらず、この結果である。徳仁天皇制は、天皇教宗教国家化をさらに強めていくそ�である。

するという歴史的経験を人民の財産として残すチャンスを失いたくないからだ。



天野恵一「象徴（人間）天皇教」とは何か！「代替わり」と戦後憲法

長澤淑夫（ピープルズ・プラン研究所）

パンフといつても一三六ページあり、読み応えタップリの評論集である。議論の焦点は象徴天皇制と二回の代替わり儀式の有り様とそれを支える憲法を含む法体系、政治・言説に対する批判である。

特に一部リベラルの支持を受ける平成天皇の「象徴行為」と今回の代替わり儀式について、平和主義、人権、民主主義原則からの批判が天野さんの主張の要点かと思う。

四五年の敗戦によって占領改革が行われ、その目玉として新憲法が制定された。これにより日本は平和国家、民主国家となり、侵略的な軍事国家と一緒に化していた神権的な天皇制もいわゆる人間宣言によって無害なものとなつた、日本は生まれ変わったという物語が戦後一定の支持を得て流布してきた。しかし天野さんによれば、そもそも戦争責任を取らずにそのまま居座る昭和天皇は大問題である。また、憲法には天皇制が残り、しかも第一条に天皇を象徴として規定し、その条文に「主権の存する国民」なる語句を挿入して、軽く扱っている点も問題だ。Imperial law を皇室法とせず皇室典範なる明治憲法体制の「神聖」な尻尾を、GHQを誤魔化しつつ、生き残らせた。さらに「人間宣言」では、「自分は神ではない」とは言つがGHQ案を修正し、神の末裔である点を明確に否定する内容は修正された。こうして三種の神器を宗教的に受け継ぐ道を残した点を紹介し、天皇は「人

間の顔をした新しい神」になつただけだと天野さんは喝破する。

明仁天皇について、彼は象徴行為を問題にする。先の天皇の戦争責任を棚上げにしたままのサイパン等慰霊の旅や、先代が行けなかつた沖縄に出かけ、琉球人をヤマトに取り込みにいく旅を問題にする。そもそも憲法に書いてある天皇の国事行為以外の行為は全て違憲である。しかしあそらく平成天皇は意図して憲法を破り、「象徴としてのお仕事」をつくり、天皇制の生き残りを可能にし、次代へのバトンタッチを行つたのだ。これに保守的政治家が乗つかるのは当然としても、批判的であるはずのマスコミや学者、言論人まで認めてしまったという状況を天野さんは批判してゐる。さらに記憶に新しいビデオメッセージによって政府を動かし、生前退位を可能にしてしまつたことを明確に憲法違反＝壊憲と批判する。

続いて、代替わり儀式（即位礼や大嘗祭）を違憲と批判するが、要点は明治憲法体制にあつた宗教的儀式をそのまま税金で行つことは、私的領域であろうが、たとえ内廷費で行おうが同じことだと批判する。ここでの要点は「現人神」の繼承儀礼（象徴天皇教）の宗教儀礼はあくまで政教分离原則（憲法10条）と矛盾するところなのだ。こうした儀式のど真ん中で天皇は「護憲発言」し、マスコミの賛美が続くという構図を天野さんは批

判的に取り上げる。

彼の取り上げるテーマは皇室の結婚問題、オリエンピック、天皇の平和擁護発言、島中事件、憲法研究の空白（天皇大権と植民地支配）、天皇がらみ儀式の警備問題、共産党の変質など多岐にわたる。それぞれに対応する文献を取り上げつつ（勉強のスゴイ量と質にアタマが下がります）、天野さんが論評を加え、天皇問題を日本社会の全体と関係づけて論じるというスタイルである。いくつか挟まれた対談では、こうした議論をわかりやすく語り直しているので、ここから読むといいかもしない。

最後に要望。戦後直後、憲法研究会で活躍した高野岩三郎の共和政憲法案をいつかどこかで取り上げて欲しい。戦前、権力が、国体を理由に労働組合を拒み、言論や表現、結社の自由を拒否した経験から、彼は共和制を主張した。この重要な主張は研究会案や社会党案にも入らなかつたが、こうした主張を取り上げることにより天皇制批判に太い補助線を引けると私は思つ。

● 購入お申し込みは「ピープルズ・プラン研究所」まで
Fax.03-6424-5749
E-mail pssg@jca.apc.org

見慣れた世界の風景を瞬く間に変えてしまったのは、既成の秩序を破壊する社会革命ではなかった。各国が入り乱れての戦争でもなかつた。たつひとつの新型ウイルスである。第一次世界大戦が終わつてパリ講和会議が始まるうとする直前の——それは「戦争を内乱へ」「内乱を革命へ」転化させたロシア・ボリシェヴィキ革命が成就して数ヵ月後の時期でもあつたが——一九一八年一月、俗称「西班牙風邪」が流行り始め、その後三年間にわたつて世界中を席捲した。それ以来、まさしく百年ぶりの世界的疫病禍である。植民地支配や侵略戦争など、つい喉元の史実の責任の取り方で弁えぬまま七五年もの「戦後史」を刻んでしまつてることは私たちの社会の耐え難い恥ずかしさであり哀しさでもあるが、ひとの寿命を超える百年も前に流行つた疫病禍の経験から学び、それを活かそうとする者も極端に少ない。「世界の変革」は、たつたひとつのウイルスによつて実現されつたある。多くの国々では、政府の要請あるいは命令によって、かつ資本がそれに従つて、経済活動が止められている。皮肉なことに、労働者階級の「一ーシアティ」に拠らない文字通りの「ゼネスト（総罷業）」状況が生まれている。人と人の間の距離を開け、接触機会を減らす Social Distancing（社会的距離戦略）といふ術語もすつ

太田四國の夢は夜ひらく 118

みたび



かり定着した。

思えば、異なる地域にあつてそれぞれの歴史を育み、付き合いのある動物も異なつていた異民族同士が遭遇するたびに、否応なく疫病禍は起こつた。遭遇は、経済的なグローバリゼーションの過程で人と動物とモノが行き交うことを通して、加えて戦争で互いの兵士が各地の戦場を駆け巡ることを通して実現した。紀元前に始まつたシルクロードを介しての、東アジアから地中海世界にかけての壮大なる交流の際に、東方起源のペストが異世界に伝播した。一一世紀から一三世紀にかけての十字軍遠征の際にも、ペストリ黒死病は人びとを苦しめた。イングマーリ・ベルイマンの映画『第七の封印』（一九五七）は、この史実をスウェーデンの地を背景に描いた異色の作品だ。一三世紀後半、モンゴル帝国がユーラシア大陸全体に支配を拡大した際の各地でのペストの蔓延——中世ヨーロッパは、「ペスト以前」「ペスト以後」の名づけによる時代区分が可能なほどだ。一五世紀末、大航海と地理上の「発見」の果てになされた「旧世界」と「新世界」の出会いに関しては、「感染症を持つ者」と「持たざる者」の遭遇と呼ぶ研究者がいる。植民者が持ち込んだ天然痘、麻疹、ジフテリア、おたふく風邪などがアメリカ大陸の先住民族の大量死を招いた史実は、グローバリゼーション

の本質を示してゐる。アフリカ大陸の植民地分割の歴史は、アメリカ大陸におけるそれとは違つて段階的に行われたが、そこで植民者たちが罹るマラリア、黄熱、デング熱、「眠り病」などに対する医学的対処こそが、帝国における「植民地医学」の始まりであつたことも記憶しておきたい。

今回の事態に関して論すべき観点は多角的だが、疫病と人類の関わりについての上段の簡潔な記述を承けて、譲ることができないのは国境を超えた視野である。工ボラ出血熱は致死率九〇%と言われる深刻な疫病だったが、流行は一部アフリカ諸国に限られたために、広く世界の関心を引くことはなかつた。今回も、先進諸国の繁栄する大都市の無人状態という「見慣れぬ」光景だけに心を奪われていると、ガザ、難民キャンプ、水なき民、入管施設スラム……など、当事者にしてみれば「見慣れて」いる、不利な諸条件下に人びとが「密集」している場の困難さを見過ごしてしまつ。感染症対策に関わつて、視野においても実践においても、従来の先進国中心主義が貫かれて世界が動くなら、人類の先に待ち受けているのが何かは自明のことだ。

事態を「国難」などと言い表す政治家を信じて、「ワントーム」などという標語の下で国家レベルでの対応に期待するのも虚しい。日本陸軍の防疫研究所は、ペスト菌やコレラ菌を中國民衆の上に撒き散らす感染実験を行ない、多数の人びとを死傷させた。このと戦争遂行のためには、こうして本質を剥き出しにすることがある。私たちが生きているのは一一世紀後のことだ。国家なるものは、経済的権益の獲得と戦争遂行のためには、こうして本質を剥き出しにだからといって、国家の本質が変わつたわけではない。

【昭和代替わり】の「一億総自粛」と「令和総自粛」

——〈壇憲天皇制・象徴天皇教国家〉批判 その10



天野恵

四月一日、地元同意なきまま、再稼働へ向けて工事をなし崩し的に開始してしまっている東海第二原発の工事ストップを求める、「日本原子力発電」への抗議署名を受け取らせる行動が、雨の中、四五名でなんとか実現した（六三三・八筆はすでに渡しており、第二波の行動である）。「なんとか」というのは、三月七日の東電本店・日本原電抗議行動同様、コロナウイルス感染の急速な拡大が進んでいる東京に集まる行動は、すべて「自粛」するしかないのでないかとの声が、運動の中でも強くなり、大きな集会はすべて中止においていまっている状況下だからである。「なんとか実行」VS「中止」の主張がぶつかる討論がくりかえされ、マイクなどのアルコール消毒体制の準備、参加者へのマスク配布など、主催者側のできるだけの対策を前提に（有志）で行う（あたりまえの心配ゆえに中止を主張し不参加を表明する人に対する非難などはありえない）ということを確認しての行動であった。無理を承知で私も参加。

この日の「原電」への「申し入れ書」の質問にはこゝにある。

「いま我が国も、そして世界が、新型コロナウイルスの感染病のパンデミック下にあります。この感染病災害、地震や津波、水害といった自然災害の危険性に私たちは囲まれています。これに加えて人災ともいえる『原発事故』という原子力災害」を、そしてまた『これらの複合災害』を私たちはおそ

れます。その中で、人為で止める」ことができる原発の運転、ましてや老朽化し、人口密集地帯に立地する東海第二原発の危険性をなくすために、ぜひとも再稼働を断念され、安全な廃炉へと向かう賢明な選択を求めますが、貴社の真剣な対応策をお示しください」。

原発再稼働政策をやめない安倍晋三政権は、コロナウイルスに対しても、まったく危機感なき対応を見せつけてきた。専門家会議にアリバイ的に参加するのみ、東京オリンピック開催へのマイナス影響への政治配慮から、なによりも早く広く実行されるべきPCR検査を、医者が必要といつてもきないケースが出るところまで押さえこむ、感染を少なく見せる（人命無視の）政治である。ところがヨーロッパ、アメリカ、そして世界の感染者の爆発的拡大は、オリンピックどころではない状況になると、当然の「中止」でなく、オリンピック憲章を無視し「IOC（バッハ会長）と組んで「一年延期」に持ち込む（そこにはアメリカのトランプ大統領の「一年延期」発言のバックアップもあつた）。コロナパンデミックを政治的にフル活用する方向へ転じた（怯えから追いこまれたともいえるが）。

すでに二月二七日には、独断的に、全国小中高、特別支援学校のすべて休校要請を発した首相は、「新型コロナウイルス特措法」を強引につくり「緊急事態宣言」を発令する準備をとのえた。この動きと連動し、小池百合子東京都知事は「感染爆

発重大局面」宣言、「東京全面封鎖」の可能性を口にした（安倍自民と小池の間の関係は、次の都知事選に对立候補を自民が出さないと表明していることに象徴されるよう）。「コロナ・オリンピック」協力を通じて深まっている。

「コロナ感染クルーズ船への安倍政権の対応をめぐつて、神保太郎は「メティア批評」（『世界』四月号）で、こういう評価を紹介している。

「ニューヨーク・タイムズ紙が二月一八日付の電子版で、日本政府の対応を『公衆衛生危機の際には行つてはいけない対応の見本』『医学的な悪夢だ』

と強く批判した」。

（悪夢）の安倍首相の独断で、通行・移動、表現の自由などの基本的な人権をまるごと制限する「緊急事態」の判断の基準がまるで不明確、すなはち安倍の都合のいい判断が可能な宣言。これを急がす声も、マスコミの煽動もあり、今、下からわきあがつてている。

「昭和」天皇重体報道から始まった三〇年以上前の「一億総自粛」化。それは天皇への心配の身振りの儀礼的全國化であり、「自粛」に抗議する運動をつくりだしたい全国各地の反天皇制運動は、その同調圧力に抗する運動の中で、「自粛」はすこぶるタメマエ（ホンネはおつきあい）だけの「名目的統合」儀礼であるにすぎないことを実感し続けた。今回の「代替わり」儀礼の終わりに向かう時間に噴き出した「総自粛」化への動きは、運動の方でも、感染拡大を防ぐ（自分たちそして人々の命を守る）という限りでの自発的同調はありまえ。しかし、（悪夢）の天皇儀礼、安倍政権への批判の行動はますます必要。さて、どうする。

の懲戒処分を受けた元教諭の女性2人が処分取り消しを求めた訴訟の控訴審判決で、東京高裁が、1人だけ処分を取り消した一審東京地裁判決を変更し、もう1人の処分も取り消す。

【3月26日】

徳仁◆東京五輪・パラリンピックの延期決定について、徳仁が「選手・大会関係者、観客にとって安全に開催され、平和で友好の輪が広がる大会になるよう願つている」と述べたと、側近が明らかに。

7条解散◆自民党的伊吹文明・元衆院議長が二階派会合で、新型コロナウイルスの世界的な感染終息が見えるまでは衆院解散に踏み切るべきではないとの考えを示す。憲法7条に基づく解散は天皇の国事行為に当たると指摘し、大義のない解散は望ましくないと強調。

共産党◆共産党的小池晃・書記局長が、立憲民主党の福山哲郎・幹事長と国会内

美空の「眞理相」

象徴天皇制と「転向」

二月二九日、午後五時からピーブルズプラン研究所会議室で「平成代替りを問う」連続講座 第二期の第六回「象徴天皇制と「転向」」が開催された。今回の参加者は二〇人。伊藤晃さん・天野恵一さんが問題提起をし、松井隆志さんが司会をした。

で会談。天皇制や自衛隊など他の野党と見解が異なる基本政策について、野党連合政権が実現しても「政権内には持ち込まない」との方針を説明。

【3月27日】

皇居・東御苑◆一般公開されている皇居・東御苑を、28日から当面の間、臨時休園する。

共産党◆国民民主党の平野博文・幹事長が、共産党的小池晃・書記局長と国会内会談。小池書記局長が、野党連合政権が実現した場合、天皇制など他の野党と見解が異なる政策の実現を求めないと説明。

【3月28日】

千鳥ヶ淵墓苑◆1959年の当日、第2次大戦中に海外で死亡した「無名戦没者の墓」として千鳥ヶ淵戦没者墓苑（東京都千代田区）が完成したと報道。

【3月29日】

平成◆元号の選定過程を巡り、政府が

伊藤さんは、「天野さんは、その著書『危機のイデオロギー——清水幾太郎批判』で転向問題の検事役を務め、自分は著書『転向と天皇制』日本共産主義運動の一九三〇年代』で転向問題の弁護人を務めた。今日はその二人が揃いました」と前置きし、「1、戦前転向——戦後転向の前提としての」「2、戦後転向」「3、戦後転向の戦前転向との比較」「4、戦後天皇制と戦後転向」「5、戦後転向を批判するわれわれの立脚点はなにか」という5つの論点を話され、5番目の論点を「①重『思想とはなにか』・吉本隆明『転向論』・思想の科学グループ『共同研究』論」などとの著作を例にあげつつ話された。

二月二九日、午後五時からピーブルズプラン研究所会議室で「平成代替りを問う」連続講座 第二期の第六回「象徴天皇制と「転向」」が開催された。今回の参加者は二〇人。伊藤晃さん・天野恵一さんが問題提起をし、松井隆志さんが司会をした。

天野さんは、「①転向論の戦後史」「②三〇年前代替りと今回、日本共産党的転向、賀詞問題」の2つの論点を、古在由重『思想とはなにか』・吉本隆明『転向論』などとの著作を例にあげつつ話された。

（田中）

【日の丸・君が代】強制を跳ね返す 横浜デモ

ス感染拡大防止のため「全国の小・中・

戦後国民一体にわれわれが対置する自立

会をした。

の最終候補に残った他の元号案や、平成を

含む考案者の名前を非開示としたことが、

共同通信の情報公開請求に基づいて開示

された公文書で分かる。

【3月30日】

【立皇嗣の礼】◆4月1日の「立皇嗣の礼」

に開いて、秋篠宮が住まいの赤坂御用地東御苑（高輪皇族邸）に入居。最長で1年半住み、その後は改修工事を終えた赤坂御所に転居する。

【3月31日】

明仁・美智子◆仮住まい先となる「仙洞仮御所」（高輪皇族邸）に入居。最長で1年半住み、その後は改修工事を終えた赤坂御所に転居する。

【4月1日】

愛子◆歴代天皇などを祭る皇居・宮中三殿を参拝し、学習院女子高等科を卒業したことを報告。半蔵門から車で皇居に入る。

【4月2日】

天皇訪韓◆明仁が天皇に即位した直後の1989年4月、宇野宗佑外相（当時、

宮内庁人事◆上皇侍医藤田大司、皇嗣職宮務官藤田雅史が依頼退職し、京都事務所長詫問直樹が定年退職する。

寄付◆参院の本会議で、徳仁が即位したことにより、徳仁が社会福祉事業へ1億円以内の寄付ができるようにする議決案

を全会一致で可決。

【内奏】◆安倍晋三首相が、皇居で「内奏」。

（田中）

（以下同）が、同年5月下旬に予定された韓国の盧泰愚・大統領の訪日計画を協議するため訪日した崔浩中相に「天皇陛下の最初の海外訪問として訪韓を実現す

る方向で調整したい」と伝えていたこと

が、公開された韓国外交文書で判明。明

仁の訪韓は皇太子時代から複数回検討さ

れたことが知られるが、天皇即位直後に

も日本側が進め、韓国が前向きに応じて

いたことが初めて分かったほか、この時

期までの訪韓計画は、一貫して日本政府

が主導したことでも浮き彫りとなつた。

（以下同）

田神奈川教区社会委員会ヤスクニ・天皇制問題小委員会の共催である。

当初、毎年二月から三月上旬に取り組んできたこの枠で、スピーカーに梁恵子（ヤン・チヨンジヤ）さんを招いて屋内集会も予定していた。主催者メンバーは新型コロナについて集会開催可否を議論し、集会自粛と感染拡大予測のはざまで見解はわかった。結局、直前に波止場会館から貸し出しをしないという通告を受けて、デモだけは行つことを決めたのだった。象の鼻パーク（波止場会館となり）の

広いスペースに、八〇人近くが集まつた。女性と天皇制研究会、反五輪の会、都教委包囲ネットの仲間からアピールを受けた。梁さんも駆けつけ、例年取り組む四

二三「アクションの紹介」、日本軍性奴隸被害にあったペポンギさんのことなどを話して貰つた。また横浜・寿町の越智さんはカジノ誘致の問題点、市長リコールに向けた住民投票を訴えた。コロナ情勢で集会、表現の自由が萎縮させられる中、議会の多数派が民意を無視して着々と物事を進めていくのは恐ろしいことだ。

おわてんねうとの仲間の協力なしにはこの日の行動は成り立たなかつた。特に

おっちゃんズは「元号やめよう」、「天皇制はいらないよ」を歌い、沿道の人の注目度も高かつた。右翼は八月に来たのと同じ街宣車二台が、的外れなことを大音量でがなりたて、迷惑だ。

この時期は一〇〇、安倍たちが五輪開催を「完全な形で」強行しようとしている最中でもあった。五輪等に向けた「中止だ！中止」のコールも織り交ぜながら、馬車道、伊勢佐木町界隈を元気よく行進原発を推進する「皇廟秋篠宮出席の東日本大震災九周年追悼式典」・一斉默祷反対！被災者・被災地切り捨てと原発労働者棄民化の「復興五輪」反対！三一一を反天皇制・反原発の日に！」集会を「3.

【学習会報告】

古川隆久 「建国神話の社会史——史実と虚偽の境界」
(中央公論社・一〇一〇年)

まず著者は、『日本書紀』や『古事記』に描かれた「天照大神を中心とする天皇の祖先とされる神々が日本の建国に向けて活動し、地上に降りるまでの物語」と、その子孫とされる彦火火出見(ヒコホタチミカハラ)が、櫛原で初代天皇たる神武天皇に即位するまでの物語」が、いじごでいう「建国神話」であり、核心は「日本という国家を作り、代々途切れることなくこの国を統治してきた天皇は、神の末裔だ」ということ」だと論じ、この「神話」が義務教育の過程で徹底的にたたきこまれた、大日本帝国主義憲法下の教育に具体的にメスを入れる。本書にまかれた帯には「先生、そんなの嘘だつべ！」という生徒の言葉が刷り

こまれてある。

科学的実証の論理（史実）と、神話教育の間の落差に、大人の先生は当然、生徒も、すゝぐる自覺的であり、「現人神」の意識として日本の「伝統」として再天皇統治下でも、「神話」があることと、その子孫とされる彦火火出見(ヒコホタチミカハラ)が、櫛原で初代天皇たる神武天皇に即位するまでの物語」と「史実」とと解されてはいなかつた事実（乗り越えがたい矛盾）が、その教育現場で発された子供の言葉に象徴されている。神話こそ史実だと、多くの教師も生徒たちも、思い込んでいたわけだ。

とすれば、私たちは著者のごとく、まちろん、私たちにとっても、史実と神話の癒着した物語を前に、まず、史実と神話を峻別することが必要である。その峻別作業を媒介にその曖昧（癒着）物語全体をトータルに論理的に批判し抜く作業こそが、今、必要であるはずだ。

本書はこうした思いを強く持たせるはなく、それは国家のイデオロギーとしてタテマ工的に従つていただけであった。その点が、本書で具体的に示されていて、その点が、私は非常に教えられた。

とすれば、「神話」が「史実」と「神話」が曖昧にくみあわされ

て作りだされている支配のイデオロギー（伝統神話・物語）と、正面から対峙しながら問題を考えていくことが大切だ。いじかえれば、「史実」でない「非科学」と批判すればすむわけではない。

もちろん、私たちにとっても、史実と神話の癒着した物語を前に、まず、史実と神話を峻別することが必要である。その峻別作業を媒介にその曖昧（癒着）物語全体をトータルに論理的に批判し抜く作業こそが、今、必要であるはずだ。

「行動」主催で星陵会館において行つた。コロナ感染防止を理由とした政府の行動自粛圧力を跳ね返すべく六〇名が結集した。

集会は主催者の「政府式典は、中止となつたが、政府のやくろみは何も変わつてない。政府は、『追悼式』を来年一〇年で終え原発事故収束を演出しようとしている。政府・電力資本の責任追及の声

を上げ続けよう」と基調報告を行つた。続いて鵜飼哲さん（一橋大学教員）は「福島原発事故隠しの東京オリンピック・パラリンピックと天皇制」と題して講演を行つた。宇梶静江さん（アイヌ民族）や金時鍾さん（在日朝鮮人）の発言から、震災後も何の回心もせず、災害を政治的出来事として記憶せず、忘却するだろう

や金時鍾さん（在日朝鮮人）の発言から、震災後も何の回心もせず、災害を政治的出来事として記憶せず、忘却するだろう。日本人への痛烈な批判から始めた。オリンピック開催は原発事故を忘れさせるために行われる。オリンピックがもたらした災害の数々を具体的に指摘し、最後に復興の象徴とされる福島の風景の変化は作業員の総被ばく労働時間と等価であると発言を終えた。

池田実さん（元原発労働者）は「重層的下請け構造と原発労働の実態」としてその実態を語り、今後も労働者の命と健康を守るために闘つと決意を述べた。〔3.1から一〇年目 原発被ばく隠しを許さない首都圏行動〕行動、「オリンピック災害」お」とわり・連絡会、4.28—29行動実行委員会、ピリカ全国実・関東グループからアピールを受け、デモで「一斉黙祷反対」「復興五輪反対」の声

を上げた。 (3.1行動／野村洋子)

オリンピックは中止だ中止！

三月二十六日、「オリンピック災害ねじり」連絡会（おじとわりんく）は、新宿アルタ前に集合、都庁に向けて「オリンピックは延期ではなく中止だ中止」と訴えるデモに取り組んだ。

もとやとじの日は、福島県のつるんレッジから「聖火リレー」が田発する予定だった。おじとわりんくとしては、当口せ、いわき現地で聖火リレー反対の声をあげるメンバーと、東京で「デモをおこなうメンバーとに別れて、それぞれ行動を展開する予定だった。しかし新型コロナウイルス状況でオリンピックが一年延期、聖火リレーも中止となり、いわき行動も中止して東京の行動に集中することになったもの。

アルタ前では、おじとわりんく、反五輪の会、南相馬からの避難し「ひだんれん」で活動している村田さんなどの発言が続

集会情報 INFORMATION

4月4日（土）●救援連絡センター第16回定期総会

3月28日（土）●「聖火リレーとオリンピック災害」

4月26日（木）●中止だ中止 オリンピック聖火リレーをやめる！（集会の真相参照）

3月24日（火）●おじとわりんクスタンディング

4月29日（水・休）●反「昭和の日」デモ

4月24日（金）●おじとわりんクスタンディング

3月21日（土）●戦争と治安管理に反対するシンポジウム

真相参照)



3月7日（土）●「日の丸・君が代」の強制を跳ね返す 神奈川デモ（集会の

13時開場／エルおおさか6F（地下鉄天満橋駅）／堀内哲／主催：天皇代替わりに異議あり！関西連絡会（連絡先：090-5166-1251 寺田）

4月12日（日）●いま共和制日本を考える

13時開場／エルおおさか6F（地下鉄下鉄早稻田駅）／主催：同館

（北野薫）

（4月12日）●いま共和制日本を考える

13時開場／エルおおさか6F（地下鉄天満橋駅）／堀内哲／主催：天皇代替わりに異議あり！関西連絡会（連絡先：090-5166-1251 寺田）

4月19日（日）●アキシノノミヤ立皇嗣を認めない・アピール行動

15時／東京駅丸の内口前（JR東京駅ほか）／主催：今こそ問う「安保・沖縄・天皇」4・28—29連続行動実行委員会・有志（090-3438-0263）

*会場等の理由により中止・延期の可能

性あり。主催者へのご確認を。

●コロナに乘じたヘイトをやめろ！緊急アクション

17時15分集合・18時デモ出発／新宿アルタ前広場（JRほか新宿駅）／主催：差別・排外主義に反対する連絡会（riteihiyo@gmail.com）

●原発事故当日アクション／皇室・反原発の日に！（集会の真相参照）

19時／東京駅丸の内口前（JR東京駅ほか）／呼びかけ：オリンピック災害おじとわりんクスタンディング

4月24日（金）●おじとわりんクスタンディング

17時／原宿駅前・五輪橋（JR原宿駅ほか）／主催：基地・軍隊はいらない4・29集会実行委員会（連絡先：090-3910-4140）